

◆◆◆◆◆創立50周年通信◆◆◆◆◆

ON KO CHISHIN

# 温故知新

赤磐市立山陽小学校  
No. 18  
令和3年12月10日

## 創立50周年記念式典を終えて

先日（11月21日）は、創立50周年記念学習発表会に一家庭2名までという制限はありましたが、お子様の発表の様子を参観して下さりありがとうございました。また、午後からの創立50周年記念式典には、規模縮小とはなりましたが、多くのPTA役員さんにお越しいただきありがとうございました。お子様が持ち帰った「創立50周年記念誌」は、きっと、その日の夜の食卓での話題になったと思います。どうか、「思い出の一冊」としてどうか大切に保存してください。

本日の通信では、記念式典当日の校長式辞を掲載させていただきます。

### 「創立50周年記念式典祝辞」

本日ここに、赤磐市立山陽小学校創立50周年記念式典を、赤磐市友実市長様、赤磐市教育委員会土井原教育長様、赤磐市議会佐藤議員様、牛尾議員様、そして、5名の学校評議員の皆様にご臨席を賜り挙行できますことは、私どもにとって大変ありがたく存じます。

本来ですと、本校卒業生の方々、お世話になった地域の方々や歴代の教職員をはじめ、たくさんの方をご招待申し上げ、盛大な式典を開催したいところですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小して開催しておりますことをお許しいただければと思います。

しかし、このような状況でありながらも、本日の式典や年間を通して開催しております様々な記念行事では、地域の方々、保護者の皆様、高陽中学校、環太平洋大学の皆様、そして、創立50周年記念事業実行委員会の皆様にご支援ご協力いただきましたことに重ねてお礼申し上げます。

本校には「高月小学校95年誌（昭和46年発刊）」、「高陽小学校95年誌（昭和44年発刊）」、「西山小学校100年誌（昭和47年発刊）」があります。いずれの年誌も各校の輝かしい伝統が記され、PTA活動の様子も詳細に記されています。

山陽小学校は、今日まで3つの小学校の立派な伝統を受け継ぎ、開校以来、赤磐そして東備地域の中核を担う小学校となるべく、熱心に研究に励み、数々の教育実践を積み重ねてきました。その間に、本校を巣立った児童は、5,391名です。

創立50周年の合言葉は「温故知新」としています。これからは、よき伝統と校風を受け継ぎつつ、Society5.0に向けた人材を輩出するよう新たな歩みを進めてまいります。

そして、山陽小学校の今の歴史を日々刻んでいる5年生、6年生の皆さんには、歴史で学んだ伊藤博文やテレビドラマでも放映されている渋沢栄一が活躍していた明治の頃からある高月・高陽・西山小学校のすばらしい歴史のうえに自分たちはいることを忘れず、さらに力強く歩み新たな山陽小学校の歴史を創ってほしいと願っています。

結びにあたり、これからも長い歴史と伝統に恥じない努力をし、本校の特色である教育研究と地域と一体となった学校の創造に向けて努力することをお誓い申し上げます。

校長 坪井 秀樹

